

2021年

## 春の読書感想文・課題作文優秀作品

### 【小学部・読書感想文】

「野口英世」を読んで

十日市場校 S・Yくん（十日市場小）

僕がこの本を読もうと思ったのは、野口英世について、千円札にのっていることくらいしか知らず、具体的にどんなことをした人なのかを知りたいと思っただけだ。お札にのるくらいなのだから、きつとすごい人なのだろうと思いつき始めた。

しかし、実際の野口英世は長所ばかりを持っている人ではなく、短所の多い人だった。例えば、給料をもらえば調子に乗ってすぐお金を使い切ってしまうたり、自分が興味を持つものについては、周りの人のことを考えられなくなってしまうくらいしていた。これを知って、優等生であるはずの英世に少し親しみを覚えた。僕は英世と違ってお金の使い方にはだらしないし、周りの人のことも考えられていないと思う。その一方で、僕はものを忘れたりなくしたりすることがよくある。英世に欠点が多いことを知って僕は安心した。人間誰でも、いいところもあれば悪いところもあるのだと僕は感じた。

ところで、「こころざしあれば道あり」、これがこの本を読んで一番心に残った言葉だ。人はやる気になって努力すれば「こうすればよい」という道が見つかるということわざだ。英世は医者になるという志を抱いて、実際に誰よりも努力して医者になった。それだけではなく、細菌学の勉強もしてペストの患者を発見して日本で広まらないようにしたり、黄熱病の研究をしてワクチンを作ったりしてたくさんの人々を救った。

僕は今、サッカーを習っている。志はチームの市大会での優勝だ。そのために自分自身ももっとうまくなるうとリフティング両足交互で百回という目標を立てて毎日一時間半以上練習を続けてきた。最初は全然できなかったが、今ではできるようになってきている。志を持って目標を立てれば、他でも多くのことができるようになると思う。これからも新しい目標を立てて努力していきたい。

### 【中学部・課題作文】

センター北校 M・Hさん（中川西中）

私はゲームをあまりしない。だから、香川県に暮らしていたとしても今回の条例について他人事を感じていたものと思う。しかし、ゲーム好きの人にとっては見逃せないことで、自分の好きな物を自由に扱えない点では一方的と感じるのも無理ないだろう。

課題文にあるように、自宅で過ごす時間は確実に増えてきている。グラフィから、全国的な学校の休校が始まる少し前からは平均時間の折れ線グラフが右上がりになっており、そして一度は減少したが全国緊急事態宣言が出る前頃から再び急速な勢いで増加したことが読み取れる。

また、表IとグラフIIを見ると、約六割の保護者がプレイ時間は一時間以内にして欲しいと思っているのに対して、約三割の小学六年生が平日に二時間以上ゲームをしている。私はこの二時間は学校などのある平日に限るだけで、何もない休日にもっと増えるだろうと考える。その反面、五割まで達していないのは少なからず親の影響があるからだと感じる。

ところで、ゲーム条例の裁判についてだが、私は「私的な時間の過ごし方に行政が介入しているのではないか」という争点に関心を持った。私は普段、生活の中で嫌なことがあった時、悶々とせず次のことに目を向けられる心の切り替えに私的な時間を使うことがほとんどだ。だからこの争点において、もしこの条例が私の好きな物についてのもので、普段の私を理解している親が制限を設けるならまだしも、個々を知らない行政が権力を使って規制してしまうのは行き過ぎだと思う。

私はゲームに対して想像力がつくという点では利点があると考えている。しかし、今回の課題からゲームに限らずに「好き」と「依存」は違うのだと知った。だからこそ、一方的な規制や介入を受け入れるのではなく、自分の行動を客観的に見直すようにしたい。そして、趣味に依存し過ぎずに私的な時間を有効に使っていきたい。